



『初代校長・片岡 安 氏はどんな人？』

今回は、常翔学園の前身である「関西工学専修学校」の初代校長を務めた、片岡 安 氏についてご紹介します。

1. 片岡 安 氏について



【写真上】初代校長・片岡 安氏
【写真下】片岡 安著
「現代都市之研究」
(大正5年発行)

片岡 安は1876（明治9）年6月、石川県金沢市で生まれました。1897（明治30）年7月に東京帝国大学工科大学建築学科を卒業し、日本銀行建築部の技師となりました。同行在職中に、後に大蔵大臣となる片岡直温^{なおほる}（1859-1934、注1）の婿養子となりますが、直温の兄は関西財界の重鎮である片岡直輝、直輝の長男は大阪ガス社長を務めた片岡直方です。

その後、（株）三十四銀行技師を経て、明治から大正時代にかけての建築界の重鎮であり、東京帝大での片岡の恩師である辰野金吾（1854-1919）とともに、「辰野片岡建築事務所」を大阪中之島に開設しました。

1920（大正9）年には、「都市計画の科学的考察」の論文で東京帝国大学から工学博士の学位を授与され、1922年（大正11）年1月、新たに「片岡建築事務所」を設立しました。また著書に「現代都市之研究」、「都市計画」があり、片岡は都市工学の権威として内務省の都市計画委員や大阪市の都市改良計画調査委員会委員、大阪工業会常務理事として都市計画に関与していました。

建築家としての片岡の代表作に、「大阪市中央公会堂」、「旧大阪市庁舎」などがあります（共に実施設計）。

2. 建築界以外でも活躍 ～教育者・大阪財界の中心人物として～

片岡の活躍は、建築界だけにとどまりませんでした。

大正初期、全国の産業をリードしていた大阪。大阪の工業界がさらなる発展を遂げることを目的に、1914（大正3）年に大阪工業会（注2）が設立されました。片岡はその3代目理事長を勤めましたが、設立当初から「工業教育の振興普及」を重視しており、1915年には大阪府知事からの諮問に対して、「大阪のごとく工業をもって立つ土地においては、

その工業に従事し、若しくは従事せんとするものに対し、**業余の夜間を利用して適切なる知識技能を授けることは、工業の進歩発展上極めて必要にして急務である**」などの「大阪市における工業教育の普及改善に関する施政案」を答申しました。なお、この答申の原案は、片岡をはじめとした12人の委員がまとめています。

そして、大阪工業会は大阪工業夜学校を設立しますが、運営資金が鉄工、電気、紡績などの企業に依存していたこと、学校運営に一定の制限があったこと、土木、建築などの学科がなかったことなどから、片岡は「大阪工業会が自ら進んで、工業に従事する者のために夜間を利用して中高等の工業教育機関を設けて教育を行う」理念を説き、1922年に関西工学専修学校の創設にかかわり、初代校長となりました。

また、1933(昭和8)年には大阪商工会議所副会頭に就任。工業に関する諸問題のほか、米穀配給統制、物価対策、電力不足対策などのさまざまな問題に取り組みました。1934(昭和9)年には出身地の金沢市の名誉市長となり、1940(昭和15)年には大阪商工会議所第13代会頭に就任。大阪財界の中心人物として活躍します。

工業教育の必要性を説き続け片岡は、1946(昭21)年5月に世を去りました(享年69)。

3. 辰野金吾氏について

辰野金吾(1854-1919)は、工部省工学寮(のちの工部大学校、現在の東京大学工学部の前身)を卒業後、イギリスに留学。東京帝国大学工科大学学長を歴任し、先に紹介した「辰野片岡建築事務所」を設立、228件におよぶ建築物を設計しました。代表作に「東京駅」、
「日本銀行本店」などがあります。



【写真】現在の東京駅丸の内口

(注1) 弘世助三郎を中心に設立された日本生命保険は、片岡直温のもとで経営の近代化を進めました。

(注2) 大阪工業会は2003年4月に大阪商工会議所に統合されました。

(注3) 建築家・片岡安の作品については、「常翔History」第6号および第7号で特集する予定です。



常翔歴史館では、学園創設期から今日にいたるまでの「学園のあゆみ」を、写真や展示物などを通して紹介しています。**自校史学習の一環として、ぜひ生徒・学生のみなさんご来館ください。**

① 開館時間：月曜日～金曜日の11:00～17:00

【学園が定める休業日は除く】

② 問い合わせ先：常翔歴史館事務室

(内線/大宮 801-7762)

【参考文献】①大阪の教科書(橋爪紳也監修、創元社編集部編)、②大阪工大摂南大学80年史
③美術家人名事典(日外アソシエーツ、建築・彫刻家篇)